



2021年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日

東

上場会社名 サイジニア株式会社

上場取引所

コード番号 6031

URL <http://www.scigineer.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役CEO

(氏名) 吉井 伸一郎

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長

(氏名) 石塚 雅一

(TEL) 050-5840-3147

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

—

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第1四半期の連結業績(2020年7月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第1四半期	295	—	△66	—	△64	—	△64	—
2020年6月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2021年6月期第1四半期 △64百万円(—%) 2020年6月期第1四半期 ー百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第1四半期	△30.77	—
2020年6月期第1四半期	—	—

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. 2020年6月期第1四半期においては四半期連結財務諸表を作成していないため、2020年6月期第1四半期の数値及び対前年四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第1四半期	445	270	58.0
2020年6月期	558	334	57.9

(参考) 自己資本 2021年6月期第1四半期 258百万円 2020年6月期 323百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年6月期	—				
2021年6月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の連結業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

添付資料P3.「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載のとおり、現時点では、連結業績に与える未確定な要素が多く、業績予想を数値で示すことは困難な状況であり、2021年6月期の連結業績予想は非開示とさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ー 社 (社名) ー 、除外 ー 社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年6月期1Q	2,109,186株	2020年6月期	2,109,186株
② 期末自己株式数	2021年6月期1Q	ー株	2020年6月期	ー株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年6月期1Q	2,109,186株	2020年6月期1Q	2,109,186株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3.「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

前第1四半期連結累計期間においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期累計期間との比較分析については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況ではありますが、このところ持ち直しの動きがみられております。

先行きにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルが段階的に引き上げられていくなかで、持ち直しの動きが続くことが期待されておりますが、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響については十分注意する必要があります。また、令和2年7月豪雨等の経済に与える影響や金融資本市場の変動にも十分留意する必要があります。

当社グループが関連する2019年のインターネット広告媒体費のうち、運用型広告費は1兆3,267億円（前年比125.2%）となり、前年に続き、大規模プラットフォームを中心に高成長となりました。大規模プラットフォームではない独立した専門型プラットフォーム（ニュースキュレーションメディアなど）も、前年同様、運用型広告の機能拡充を継続して大規模プラットフォームとの連携を深めた結果、広告費が増加しております。（出典：株式会社電通「2019年日本の広告費」2020年3月11日）

このような環境のなか、当社は、パーソナライズ・エンジン「デクワス」をコアとする各サービスや、デジタルナレッジマネジメントサービス（以下、「DKMサービス」と言う。）を提供し、顧客企業のマーケティング活動支援に積極的に取り組んでおります。また、パーソナライズ・アドサービスの競争力向上及び業容拡大のため、当社は2020年3月にデクワス株式会社の株式を90%取得し、同社を子会社といたしました。同社は、DSP事業等を展開しており、当社のデータ解析技術を投入することで、さらに効果の高いソリューションを提供することを目指しております。当社は今後もグループの強みを活かした事業を展開してまいります。

既存サービスに関しましては、当第1四半期については新型コロナウイルス感染症拡大の影響がありました。特に今後の注力領域として事業取得したデクワス株式会社においては、旅行や人材業界領域で広告案件の出稿停止が発生したため、一時的に売上が大きく減少し、事業取得時の想定を下回る業績となりました。売上高は回復基調ではありますが、当四半期は新会社へのシステム移行費用がピークを迎え、収益を圧迫いたしました。今後は移行の進展と共にコスト負担が減少し、利益の拡大を見込んでおります。このように、当第1四半期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響による売上の減少と新会社設立に伴うコストが極大化したことから営業損失が拡大しておりますが、この分野は当社グループの技術的な強みを活かせる領域であることから今後も研究開発を進めてまいります。

新規サービスとして前々期より取り組みを始めたDKMサービスはこれまでに、飲食、アパレル、教育、金融、エンターテインメント、医療、美容、小売等ほとんどすべての業界に実績を積み上げることができました。その結果、DKMサービスは順調に収益を拡大し、売上高で業績向上に大きく寄与しました。今後もウィズコロナ/ポストコロナ時代を見据え、カスタマーエクスペリエンスの向上を目指した事業戦略を推進してまいります。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は295,127千円、営業損失は66,509千円、経常損失は64,272千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は64,902千円となりました。

当社グループは単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は前連結会計年度末より113,203千円減少し、421,008千円となりました。その主な内訳は、現金及び預金の減少93,741千円、売掛金の減少17,315千円、仕掛品の減少3,885千円によるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は24,005千円となり、前連結会計年度末からの増減はありませんでした。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は前連結会計年度末より48,737千円減少し、168,254千円となりました。その主な内訳は、前受収益の減少35,199千円、買掛金の減少9,257千円、未払法人税等の減少4,199千円によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は前連結会計年度末より12千円増加し、6,274千円となりました。その内訳は、資産除去債務の増加12千円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より64,478千円減少し、270,484千円となりました。その主な内訳は、利益剰余金の減少64,902千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループにおいても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響により、一部業種の取引先においてサービスの停止やサービス検討の見送り等が発生しており、先行きが不透明な状況となっております。現時点では、連結業績に与える未確定な要素が多く、業績予想を数値で示すことは困難な状況であり、2021年6月期の連結業績予想は非開示とさせていただきます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	323,555	229,814
売掛金	140,255	122,940
仕掛品	3,885	-
原材料及び貯蔵品	403	400
前払費用	64,301	64,163
その他	2,560	4,448
貸倒引当金	△749	△758
流動資産合計	534,211	421,008
固定資産		
投資その他の資産	24,005	24,005
固定資産合計	24,005	24,005
資産合計	558,217	445,013
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,037	69,780
未払法人税等	6,802	2,603
前受収益	66,107	30,908
その他	65,044	64,962
流動負債合計	216,991	168,254
固定負債		
資産除去債務	6,262	6,274
固定負債合計	6,262	6,274
負債合計	223,254	174,528
純資産の部		
株主資本		
資本金	800,961	800,961
資本剰余金	797,961	797,961
利益剰余金	△1,275,833	△1,340,736
株主資本合計	323,089	258,186
新株予約権	11,873	12,297
純資産合計	334,962	270,484
負債純資産合計	558,217	445,013

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)	
売上高	295,127
売上原価	262,255
売上総利益	32,872
販売費及び一般管理費	99,381
営業損失(△)	△66,509
営業外収益	
受取利息	1
受取配当金	462
助成金収入	2,078
営業外収益合計	2,542
営業外費用	
為替差損	305
営業外費用合計	305
経常損失(△)	△64,272
特別損失	
減損損失	347
特別損失合計	347
税金等調整前四半期純損失(△)	△64,620
法人税、住民税及び事業税	282
法人税等合計	282
四半期純損失(△)	△64,902
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△64,902

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△64,902
四半期包括利益	△64,902
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△64,902
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積もりについて)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積もりにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。